

令和元年6月4日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03474

研究課題名（和文）佐賀藩薬種商・野中家資料の総合研究 - 日本史・医学史・国文学・思想史の視点から -

研究課題名（英文）Comprehensive research on historical materials of Nonaka family, a pharmaceutical company of Saga Han

研究代表者

伊藤 昭弘（ITO, AKIHIRO）

佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・准教授

研究者番号：20423494

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,500,000円

研究成果の概要（和文）：佐賀市材木町の野中家に伝来する野中烏犀園文庫について整理分類をすすめ、合計3313点の史料を調査した。古文書を用いた「歴史班」は、幕末から明治初期における野中家の経営、国学者・儒学者と野中家の関係について明らかにした。典籍や文芸史料を用いた「文化文芸班」では、伝来する古書籍の分析、野中家と佐賀藩漢学者集団の関係について分析した。医学書・洋書類を調査した「医学薬学班」では、医学書・洋書類の内容や伝来過程にかんする研究をおこなった。以上の調査研究により、野中烏犀園文庫の全容を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

野中烏犀園文庫に所蔵される史料の調査をすすめたことにより、日本史・国文学・漢文学・思想史・科学史・医学史・洋学史など他分野の研究に活用が判明した。このような史料群は佐賀県のみならず我が国全体でも貴重なものであり、今後の保存・活用につなげるための調査・研究成果を出すことができた。

研究成果の概要（英文）：We recommended to sort out the Nonaka paperbacks that will be delivered to the Nonaka family in Saga City, Zaimoku-machi, and surveyed 3313 historical materials in total. "Historic group" using old documents revealed the management of the Nonaka family from the end of the Edo period to the early Meiji period, and the relationship between the national scholar, the scholar, and the Nonaka family. In "Cultural literary group" using classical writings and literary and historical materials, we analyzed the analysis of the old books that passed down, and the relationship between the Nonaka family and the Group of Chinese scholars of Saga han. In the "Medical and Pharmacy group" surveying medical books and foreign documents, research was conducted on the contents of medical books and foreign documents and the process of transmission. The above research has revealed the whole picture of Nonaka Usaien Bunko.

研究分野：日本史

キーワード：近世史 科学史 国文学 思想史 洋学史 医学史 資料保存

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

佐賀市材木町において、江戸時代より製薬業を営み、漢方薬・烏犀圓を製造しているウサイエン製薬の創業家・野中家には、古文書・古典籍・医学書など、日本史・国文学・科学史などさまざまな研究に活用できる史料が伝来している(野中烏犀圓文庫)。このことはこれまでも広く知られていたが、野中烏犀圓文庫全体にかんする総合的な調査はこれまで行われていなかった。そのため同文庫の概要、史料伝来の過程、史料1点ごとの詳細な内容など不明な点が多く、研究に活用することが難しい状況だった。そのため研究代表者が所属する佐賀大学地域学歴史文化研究センターにおいて、平成24年10月より調査を開始した。

2. 研究の目的

野中家は寛永3年(1626)に創業し、現在もウサイエン製薬株式会社として続いている。平成24年10月から実施中の事前調査において、同家に伝来する証文・書簡などの文書類、国書・漢籍・和歌・漢詩文など文化・文芸関係資料、医薬書・薬など医学・薬学関係資料それぞれに、学術的価値の高い資料を確認した。そのため日本史・経済史・医科学史・国文学の専門家による共同調査・資料目録作成・研究を進めることにより各分野において新たな知見を得るとともに、野中家伝来資料の意義について、佐賀地域史のみならず我が国の総合的な歴史研究のなかで位置づける。

3. 研究の方法

- (1) 研究組織は 歴史、文化文芸、医学薬学、の3班を構成し、班ごとに調査研究を実施しつつ、下記研究会などで各班の意思疎通を図り、計画的・組織的な研究をすすめる。
- (2) 年に2回の合同調査・研究会を開催するほか、随時調査・成果報告を行う。
- (3) 医学薬学班と文化文芸班が協働し、段階的に古典籍目録を作成する。
- (4) 歴史班は、古文書史料の現状記録調査・詳細目録作成を実施する。
- (5) 最終年度には、古典籍・古文書の目録を取りまとめ、資料目録をあわせた報告書を刊行し、各班の研究成果を総合して近世佐賀地域における野中家の包括的位置付けを行う。そして共同研究の成果をシンポジウム、ウェブサイトなどにより広く公表する。

4. 研究成果

野中烏犀圓文庫の詳細調査をすすめた結果、合計3313点の古文書・典籍・医書類を確認した。そのうえで、それらの史料を用いた研究をすすめた。

調査・研究成果は、報告書として刊行した。収録した論考は以下の通りである。

- | | |
|--------------------------------|--------------|
| 1 烏犀圓雑録 | 井上 敏幸 |
| 2 幕末維新时期野中家の経営 | 伊藤 昭弘 |
| 3 野中烏犀圓文庫に見える大阪の薬種商と薬剤について | 有坂 道子 |
| 4 覚書 野中烏犀圓文庫蔵『廟陵図記』 | 白石 良夫 |
| 5 野中烏犀圓の誕生に携わった藩医西岡春益と佐賀の漢学者集団 | 中尾友香梨 |
| 6 中島広足『佐嘉日記』と野中古水 | 三ツ松 誠 |
| 7 中村嘉田著『花竹堂詩文抄』について | 伊香賀 隆 |
| 8 冷善樓更名記 | 井上 敏幸 |
| 9 古活字版『延寿撮要』の表記意識 | 入口 敦志 |
| 10 野中家所蔵『医学天正記』と肥前 | 青木 歳幸 |
| 11 野中烏犀圓文庫の物理・化学書の研究 | 八耳 俊文 |
| 12 御殿診籍 | 野中 源一郎・青木 歳幸 |
| 13 野中烏犀圓文庫収蔵の諸洋医書について | ミヒエル ヴォルフガング |

1 「烏犀圓雑録」は、野中烏犀圓文庫のほか名古屋大学附属図書館所蔵野間家文書(野間家はもと尾張藩の藩医)金沢市・石黒家文書および亀田家文書(両家はもと金沢藩の御用薬種商、金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵複製本を調査)など、全国の烏犀圓関係資料を調査したほか、「甲子夜話」など江戸時代の著作や史料集に収録された烏犀圓関係記事を収集し、江戸時代における、人びとの漢方薬・烏犀圓に対する認識や、烏犀圓の流通状況などを明らかにした。

2 「幕末維新时期野中家の経営」は、嘉永5年(1852)から明治8年(1875)までの、野中家の貸借対照表に相当する帳簿を分析した。野中家の経営は、烏犀圓を製造販売する「店」、酒造業を営んだ「酒場」により構成され、その収益が野中家に集積された。また佐賀藩や重臣家との貸借関係、佐野常民など佐賀藩において大砲鑄造などをすすめた「精煉方」関係者への資金融通、幕末維新时期の烏犀圓販売状況などが明らかとなった。そのうえで、野中家の純資産は当該期増加し続けており、経営を維持・拡大していたことが判明した。

3 「野中烏犀圓文庫に見える大阪の薬種商と薬剤について」は、明治初期の野中家当主・万太郎あてに出された大阪薬種商の仕切書が調査によって発見されたため、彼らと野中家とのあいだで取引された薬剤について分析した。まず仕切書を出した薬種商の履歴を確認し、その

後個別に野中家へ納入した薬剤を検討した。多種にわたる和漢薬および洋薬が取り扱われており、明治期における薬剤流通の実態を考えるうえで、貴重な事例である。

- 4 「覚書 野中烏犀圖文庫蔵『廟陵図記』」は、野中烏犀圖文庫に伝来する伴信友著『廟陵図記』の書誌的検討を行った。当該書は現在 7 例 9 冊の存在が確認されており、烏犀圖文庫本が 8 例目となる。細井広沢の序文や伴信友の識語などを紹介している。
- 5 「野中烏犀圖の誕生に携わった藩医西岡春益と佐賀の漢学者集団」は、野中家が烏犀圖の製造を認可された際に関与した藩医・西岡春益について、履歴のほか藩主鍋島治茂や儒学者古賀精里、漢学者横尾紫洋など多彩な人脈を明らかにした。そのうえで、こうした西岡春益の人脈が、野中家の烏犀圖製造に影響していたことを見通しとした。
- 6 「中島広足『佐嘉日記』と野中古水」は、熊本藩の国学者である中島広足が著した『佐嘉日記』（広足が佐賀を訪れたときの記録）を分析し、広足と交流を持った野中古水（元右衛門、幕末期の野中家当主の叔父、当主を補佐したほか、佐賀藩代表としてパリ万博に参加し、同地で客死）の佐賀藩内外における学術・文化的人脈を明らかにした。そのほか野中烏犀圖文庫に所蔵されている、中島広足を翻刻・紹介している。
- 7 「中村嘉田著『花竹堂詩文抄』について」は、野中烏犀圖文庫に伝来する『花竹堂詩文抄』の分析である。中村嘉田は 18 世紀末から 19 世紀前半にかけて活躍した佐賀藩の儒学者である。これまでほとんど研究されていなかった嘉田の著作を検討することで、佐賀藩における儒学者の活動、文芸活動の活発さについて明らかにした。
- 8 「冷善樓更名記」は、佐賀藩の儒学者草場佩川が野中家に贈った漢詩文「冷善樓更名記」の翻刻と訳文を掲載している。
- 9 「古活字版『延寿撮要』の表記意識」は、野中烏犀圖文庫伝来の『延寿撮要』をもとに、江戸時代の漢文重用文化について論じている。野中烏犀圖文庫分には二種類の『延寿撮要』が伝来しており、原著に近い古活字版は漢文、のちに刊行された整版本は仮名交じりで表記されていることを明らかにし、庶民への医学普及のために、平易な整版本が作成されたことを明らかにした。
- 10 「野中家所蔵『医学天正記』と肥前」は、戦国末から江戸初期の有名な医者である曲直瀬道三の養子曲直瀬玄朔の診療記録である。『医学天正記』はこれまで 12 例が確認されているが、野中烏犀圖本は今回の調査で発見された。『医学天正記』における佐賀藩初代藩主鍋島勝茂の診療記録や、曲直瀬に弟子入りした佐賀藩医について検討した。
- 11 「野中烏犀圖文庫の物理・化学書の研究」は、野中烏犀圖文庫に伝来する科学・物理・化学・地学・植物学・医学・薬学・化学工業・農芸化学、および外国語、外国文学にかんする図書類を分析した。特に金武良哲訳「格物究理略説」、河野禎造訳「舎密便覽」を詳細に検討し、異本との比較などから野中家への伝来過程を検討した。
- 12 「御殿診籍」は、烏犀圖文庫伝来の「御殿診籍」を詳細に検討したものである。同書は幕末に将軍家の大奥に仕えた医師浅田宗伯の診療記録である。全文を翻刻したほか、登場している薬剤について、薬学の見地から詳しい分析を行った。
- 13 「野中烏犀圖文庫収蔵の諸洋医書について」は、烏犀圖文庫伝来の洋書類について、野中家への伝来過程を検討したものである。蔵書印や蔵書票、輸入書店のラベル、手書きの書き込みなどを分析した結果、長崎の医学伝習所において日本で初めて系統的な医学教育を行ったポンペ・ファン・メールデルフォールト、幕末の 1868 年に来日した宣教医ハインリッヒ・エルンスト・シュミット、名高い『英華字典』を編纂した宣教医ヴィルヘルム・ロブシャイトなど、注目に値する人物の蔵書だったものが多数存在することが判明した。

以上の通り、日本史・経済史・思想史・国文学・漢文学・医学史・薬学史・科学史・洋学史といったさまざまな観点から野中烏犀圖文庫の史料を分析し、それぞれの分野において、注目すべき史料が多数存在していることが判明した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 13 件)

八耳俊文「江戸の化学と史料調査」、『科学史研究』46-1、査読あり、2019、3-10

三ツ松誠「中島広足『佐嘉日記』と野中古水」、『西日本国語国文学』4、査読あり、2017、31-45

有坂道子「木村蒹葭堂のネットワークにみる知の交流」、『CEL』117、査読なし、2017、34-41

青木歳幸「適塾の歴史的評価について：地方出身門人の活動から」、『適塾』50、査読なし、2017、89-105

伊藤昭弘「幕末佐賀藩の小銃調達と「拝領買」」、『佐賀学』3、査読なし、2017、184-205

青木歳幸「『御診察日記』にみる西洋医学治療」、『佐賀学』3、査読なし、2017、207-231

〔学会発表〕(計 19 件)

八耳俊文「江戸の化学と史料調査」、化学史学会 2018 年度化学史研究発表会、2018

三ツ松誠「幕末歌壇のなかの古川松根」、第 12 回佐賀大学地域学歴史文化研究センター地域学シンポジウム「幕末佐賀の歌人たち - 直正と小車社 - 」、2018

八耳俊文「『舎密便覧』と幕末における化学史」、第 11 回佐賀大学地域学歴史文化研究センター地域学シンポジウム「野中家資料調査中間報告・野中家資料の世界」、2018

井上敏幸「佐賀藩の文人文化 - その先進性と遺産 - 」、第 10 回佐賀大学地域学歴史文化研究センター地域学シンポジウム「肥前鍋島家の文雅」、2017

三ツ松誠「中島広足『佐嘉日記』と佐賀の人びと」、近世史研究会、2017

〔図書〕(計 13 件)

八耳俊文(共著)『化学史への招待』、オーム社、2019、250 頁

三ツ松誠(共著)『幕末の佐賀と学問 - 明治維新への道 - 』、佐賀大学地域学歴史文化研究センター、2019、35 頁

白石良夫・中尾友香梨・三ツ松誠(共編著)『佐賀大学附属図書館小城鍋島文庫十帖源氏立圃自筆書入本【翻刻と解説】』、笠間書院、2018、403 頁

伊香賀隆(共著)『語り合う 良知 たち - 王龍溪の良知心学と講学活動 - 』、研文出版、2018、450 頁

W.Michel「Traditionelle Medizin in Japan - Von der Frühzeit bis zur Gegenwart」、München: Kiener Verlag、2017、400 頁

〔産業財産権〕

該当なし

〔その他〕

研究成果報告書ダウンロード URL

<http://www.chiikigaku.saga-u.ac.jp/usaienbunko>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

中尾 友香梨 (NAKAO, Yukari)

佐賀大学・全学教育機構・准教授

研究者番号：10441734

三ツ松 誠 (MITSUMATSU, Makoto)

佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・講師

研究者番号：10712565

伊香賀 隆 (IKOGA, Takashi)

佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・研究員

研究者番号：20722995

八耳 俊文 (YATSUMIMI, Toshihumi)

青山学院女子短期大学・現代教養学科・教授

研究者番号：30220172

有坂 道子 (ARISAKA, Michiko)

京都橘大学・文学部・教授

研究者番号：30303796

井上 敏幸 (INOUE, Toshiyuki)

佐賀大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：50046207

白石 良夫 (SHIRAIISHI, Yoshio)

佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・研究員
研究者番号：60137320

青木 歳幸 (AOKI, Toshiyuki)
佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・研究員
研究者番号：60444866

ミヒェル ヴォルフガング (MICHEL, Wolfgang)
公益財団法人研医会・その他部局等・研究員
研究者番号：90169769

(2)研究協力者

野中 源一郎 (NONAKA, Genichiro)

高崎 洋三 (TAKASAKI, Yozo)

串間 聖剛 (KUSHIMA, Seigo)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。